

その「物語」の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい 最終回

a taste of Yasssy

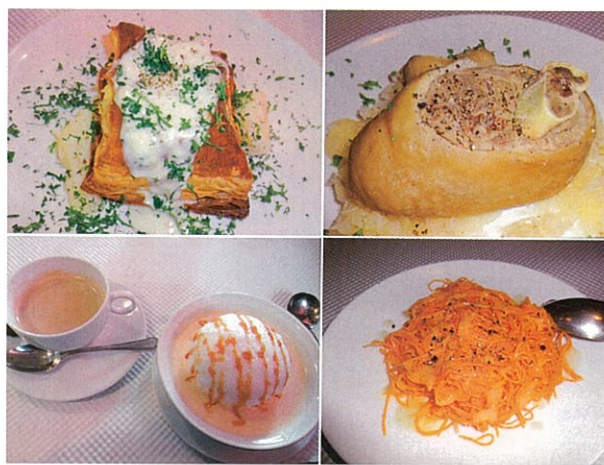
田中 康夫



たなかやすお●56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。4月25日(土)19時田中康夫×浅田彰「もとクリ」「いまクリ」から日本の現在、そして未来まで！公開対談@紀伊國屋サザンシアター。詳細はHPにて / <http://www.nippon-dream.com/>

四半世紀に亘る連載の御愛読に深謝・感謝

今週の逸品



「いまどき真っ当な」カンティーヌ アリ・バブのランチ1080円とディナー3900円から(税込み)

石塚匠氏が営む「アリ・バブ」午餐は料理10種から1皿・田舎パン・カヌレ・コーヒーで1080円。前菜4種から1皿・デザート付で1360円。晚餐は豊富な品書きから前菜2皿に主菜1皿・デザート・コーヒーで3900円。黄昏時と思い込みがちな超少子・超高齢社会ニッポンなれど夜明け前の「彼は誰時」も元来は彼が誰なのか訳かねば判らぬ、ほの暗い時間帯の朝方と夕方、両方を意味していた。故に今こそ矜持と諦観の勇氣と希望を。

【カンティーヌ アリ・バブ】東京都港区赤坂2-21-10 ヴェール赤坂1F ☎03-3583-1831 営11:30~14:00、18:00~22:30 日祭定休 禁煙 ペット同伴可

illustration by Hajime Anzai



『週刊SPA!』での僕の連載は、日本の「泡沫経済」が終焉を迎える前年の1990年春から、「その物語」、の物語。最終稿の今回は、都合四半世紀に及ぶ連載の軌跡を辿りましょう。

『朝日ジャーナル』での「フアデイツシユ考現学」と入れ替わる形で始まった「神なき国のガリバー」が最初の連載。加えて湾岸戦争時には連続対談を、原チャリに跨がり被災地を駆け巡った阪神・淡路大震災でも現地レポートを寄稿。前者は「ぼくたちの時代③」ラディ

カルな個人主義」、後者は「神戸震災日記」に所収。連載自体も「神なき国のガリバー」これが基本です。『言いたいこと、言うべきこと』の3冊に纏めています。

続いている連載は、既に2つの空港と新幹線、高速道路が存在する被災地に於ける公共事業の在り方を問う「神戸市宮空港にまつわる田中康夫のウルトラ住民投票大作戦」。30万人を超える神戸市民が署名・捺印したムーブメントは、人間国宝の桂米朝師匠を代表呼び掛け人に各界の計350名が賛同人

の意見広告「神戸市宮空港は不要無用の公共事業」を全国紙に出稿する展開へと繋がります。

40余年の食の遍歴を綴った物語が「炊の夢」。連載途中の2000年10月に信州・長野県知事に就任し、「田中康夫の愛の大目玉」と題する連載へと転換。2002年に県議会から不信任を突き付けられ、日本の敗戦の8・15が公示日、関東大震災発生の9・01が投票日の出直し知事選に至るサーヴァント・リーダーの闘いは「ナガノ革命638日」と題し緊急発行されます。

直近の「東京ペログリ日記リターンズ」は、休刊した『噂の真相』からの移籍。5月に復刊するAOR指南書「たまらなく、アーベイン」と並んでネット書店では現在、計5巻の『東京ペログリ日記大全集』は随分と無体な高価格で取引され、著者としては痛し痒しです。「心智を抱き続ける意欲と覚悟」と題してイタリア料理店を紹介した当連載の初回は2010年11月、夜郎自大な自信、自暴自棄な落胆の何れとも異なる、密やかな誇り、矜持と控えめな悟り、諦観を一人ひとりが併せ持つべき、と四半世紀前の「神なき国のガリバー」でも繰り返し述べていた僕の思考は、その意味では然して進歩も深化もしていないのかな。

が、「流石は一流の老舗ならではの味」といった表現に象徴される、誰が言い出したのかも判らぬ「評価」を無批判に受容するのを潔しとせず、二項対立を超えた弁証法的な感性ならぬ勤性を「考える輩」たる我々は研ぎ澄ませねば。

誰もが否応なしに高度消費社会の歯車として組み込まれる中で、「日没し誰を彼時」の光を日出し「彼は誰時」の光へと変えるべく、「微力だけど無力じゃない」の心意気の下、「出来る時に出来る事を出来る場から出来る人と共に一人ひとりが出来る限り」。斯くなる勇氣と希望を目指す、四半世紀に亘る連載の御愛読に深謝・感謝。